

CITATION: Akl EA, Kahale L, Neumann I, Barba M, Sperati F, Terrenato I, Muti P, Schunemann H. Anticoagulation for the initial treatment of venous thromboembolism in patients with cancer. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 6. Art. No.: CD006649. DOI: 10.1002/14651858.CD006649.pub6.
CRG名: Cochrane Gynaecological Cancer Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 9 FEB 2013
Clib issue No.; N/U: 2014 Issue 6; Update

アブストラクト

背景: 静脈血栓塞栓症(VTE)で抗凝固治療を受けている癌患者は、癌でない患者と比べて再発性VTEを生じる可能性が高い。

目的: 癌患者のVTEの初期治療に用いる3種類の抗凝固薬の非経口投与[固定量の低分子量ヘパリン(LMWH)、調節量の未分画ヘパリン(UFH)、フォンダパリヌクス]の有効性及び安全性を比較すること。

検索戦略: 2013年2月のCochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASE、ISI Web of Scienceの電子検索を含め、癌患者を対象とした抗凝固療法の試験の包括的な検索。

選択基準: 客観的にVTEが確認された癌患者でLMWH、UFH、フォンダパリヌクスを比較するランダム化比較試験(RCT)。

データ収集と分析: 標準化されたデータフォームを用いて、レビューアが方法論的な質、参加者、介入のほか、死亡率、再発性VTE、大出血、微小出血、静脈炎後症候群、生活の質、血小板減少症などの関心のあるアウトカムについてのデータをデュプリケートで抽出した。

主な結果: 同定された9,559件の引用のうち、16件のRCTが適格であった: 13件ではLMWHとUFH、2試験ではフォンダパリヌクスとヘパリン、1試験ではダルテパリンとチンザパリンが比較された。11件のメタアナリシスでは、3カ月の追跡時点におけるLMWHの死亡率がUFHに比べて有意に低いことが示された[リスク比(RR) 0.71; 95%信頼区間(CI) 0.52~0.98]。方法論的な質が低い試験を除外した後、効果推定値にほとんど変化は見られなかった(RR 0.72; 95% CI 0.52~1.00)。LMWHとUFHを比較した3件のメタアナリシスにおいて、VTE再発に統計学的に有意な減少は示されなかった(RR 0.78; 95% CI 0.29~2.08)。LMWHとUFHの比較に関するエビデンスの全体的な質は、不正確さおよび出版バイアスの可能性により、低かった。死亡率(RR 1.27; 95% CI 0.88~1.84)、再発性VTE(RR 0.95; 95% CI 0.57~1.60)、大出血(RR 0.79; 95% CI 0.39~1.63)、微小出血(RR 1.50; 95% CI 0.87~2.59)について、ヘパリンとフォンダパリヌクス間に統計学的な有意差はなかった。ダルテパリンとチンザパリンを比較した1件では、死亡率に統計学的な有意差は見出されなかった(RR 0.86; 95% CI 0.43~1.73)。

レビューアの結論: LMWHはおそらく、癌患者におけるVTEの初期治療でUFHよりも優れている。さらなる情報を得るためには、患者にとって重要なアウトカムに焦点を合わせた追加の試験が必要と思われる。

平易な要約(Plain language summary)

癌患者の血栓に対する初期治療のための抗凝固薬

背景

癌患者では、血栓のリスクが高くなっています。最初の数日以内に投与される血液希釈剤(抗凝固薬)としては、未分画ヘパリン(静脈内点滴)または低分子量ヘパリン(1日1回または2回の皮下注入)が考えられます。これら2種類の血液希釈剤は、有効性および安全性プロファイルが異なる可能性があります。

研究の特徴

血栓の確定診断を受けた癌患者を対象に様々な抗凝固薬を比較する臨床試験の科学的データベースを検索しました。試験では、死亡、血栓の再発、出血、静脈炎後症候群(長期血栓の合併症)、生活の質、(血液凝固に関与する)血小板濃度が検討されました。最新のエビデンスは2013年2月のものです。

重要な結果

本システマティック・レビューにおいて、13件の研究から得られたデータは、低分子量ヘパリンによる死亡率の低下が未分画ヘパリンより優れていることを示しています。しかし、血栓再発の抑制における優越性を証明するための十分なエビデンスはありません。これら2種類の薬剤の安全性プロファイルを比較するデータを見出すことはできませんでした。

エビデンスの質

エビデンスの質は全体的に低いものでした。

(監訳 柴田 実)

翻訳公開日: 2015年 8月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、2013年6月からコクラン・ライブラリーのNew review, Updated reviewとも日単位で更新されています。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、タイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。